

令和7年度「地域学校協働本部事業」 檜葉町地域学校協働センターの取組事例

「地域と学校とともに作り上げる協働活動」(福島県檜葉町)

取組の概要や経緯

地域コミュニティを復興・創生させるため、令和4年度より地域学校協働センターを設置して地域学校協働活動の一層の推進を図り、地域・学校のニーズに応じた多様な活動を展開してきた。



内容

- 週に4日、地域団体や地域住民を講師とした校内交流型の放課後子ども教室を展開
- 町内をフィールドにした活動、地域イベントへの参加、地域からのオーダーに基づく土曜学習の展開
- 福島大学生や東日本国際大学の留学生による「てらこや」や「異文化体験教室」などの学習支援活動の実施
- 会津や宮城県など県内外における幅広い防災教育、伝承教育
- 家庭教育支援事業と町内でこども食堂を実施している団体と連携し、親子参加型のイベントを実施

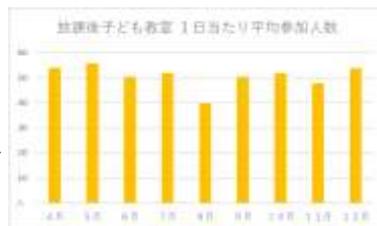


ポイント

- 多様な活動体制をセンターが整えることで、地域や学校の幅広いニーズやオーダーに沿った活動が展開できる。
- センターがCSの事務局も兼ねることで、地域や学校、保護者の声を協働活動に生かし、地域のネットワークを広げる。

成果

- 週4回実施している放課後子ども教室では、1日当たりの平均参加人数が約51名と、例年に比べ全体的に参加人数が均された状態になっている。
- 約20回の校外学習の実施のほか、今年度から新たに2つの地域団体に活動の協力をいただき、様々な活動を展開した。



今後の方向性

- 地域と学校との連携をより強化するため、地域学校協働本部の体制を整備し、円滑に協働活動が進行できるようにする。
- 多様かつ継続的な活動が展開できるようコーディネート機能を高め、地域のネットワーク強化を図る。
- 地域学校協働活動に参加する特別な教育的支援を必要とする子どもたちが増加傾向にあるため、職員やセンター支援員向けに対応の仕方や理解を深めるの学習の機会を設ける。